

# 高体連壮行式

## －「ありがとう」の感謝の気持ちを口にして－

5月12日(木)の午後に、高体連の壮行式が行われました。吹奏楽の演奏で入場し、学校長・生徒会長の挨拶。各部活の主将の抱負(ほとんどが優勝を目指して、頑張るとのこと)、チアリーダーの応援ダンス、29年の歴史をもつ遺愛教員応援団のエール、そして選手宣誓がありました。

私は挨拶の中で、バドミントンの奥原希望(のぞみ)さんのことをお話ししました。現在21歳、身長154cmで小柄です。しかし、リオオリンピックの日本代表で、今年3月14日に全英オープンでは日本の選手として39年ぶりに女子シングルスで優勝した選手です。彼女は18歳、19歳の時に、左膝、右膝を相次いで大ケガしましたが、懸命のリハビリの甲斐があって、完全復活しました。リハビリ後は、ケガの前より強くなり、次々と世界のトップ選手を破り、金メダルの最有力候補になっています。ケガ前とケガ後で、試合の時のルーティンが変わって、コート内で何か一人言を言うようになりました。言っている内容は、リハビリの時に支えて下さった方への感謝の言葉、「ありがとうございます」という言葉でした。「ありがとう」という言葉には実はパワーがあります。高体連に臨む遺愛の選手の皆さんも、今までお世話になってきた人のことを頭に浮かべ、感謝の言葉「ありがとうございます」を口に出して、試合に臨んでほしいと思います。…というお話しをしました。

春季大会では、ほとんどの部活が3位以上の成績をあげ、主将の優勝の抱負・決意も実現可能です。感謝の言葉と共に、ぜひ自分たちの培った力を、本番で精一杯発揮してほしいと願っています。

2016年5月12日(木)

